

03

日々楽しむことを大切に

浜松を拠点に制作活動をしている木彫りアーティストのキボリノコンノさんに、制作を始めたことで起きた変化や、活動の中で大切にしていることについて伺いました。



袋も木彫りの「ヨックモックのシガール」



鮫皮おろしの凹凸も手彫りで表現

活動のきっかけ

2021年の9月に木彫りを始めました。それ以前は卓球をすることが趣味で卓球漬けの毎日だったのですが、コロナ禍で卓球ができなくなってしまい、家の中でできる趣味を探していました。そんな中で家にあったコーヒー豆を見たときに、ふと木でコーヒー豆を彫ったらそっくりに作れるんじゃないかと思い、小学生の頃に使っていた彫刻刀を使って木彫りのコーヒー豆を作ったのがきっかけです。

SNSで大きく話題に

話題になるまでは、自分が木彫りをするのが楽しくて作品を作っていました。SNSやテレビなどで作品が話題になってからは、たくさんの方からコメントや反応をいただくようになり、木彫り作品でたくさんの方に楽しんでほしい、木彫り作品を通してたくさんの方とコミュニケーションを取りたいという思いの方が強くなりました。



キボリノコンノ

「あっと驚くものをつくる」をテーマに、食べ物や身の回りにあるものを木で再現する木彫りアーティスト。2021年9月に木彫りを始めて以来趣味で木彫りを続け、これまで作ってきた作品数は100作品にのぼる。木彫りの「溶けかけの水」や「ヨックモックのシガール」、「納豆」など、数多くの作品が話題となっている。浜松市中区在住。

04

2022年度アーティスト・イン・レジデンスでの制作をふりかえって

2つの日常



初めての土地で長期滞在し、作品制作に取り組んだ小林明日香さんにお話を伺いました。

初の長期滞在制作の地となった浜松。普段埼玉と東京を主な拠点としている私が先ず驚いたことは、浜松ほど大きな都市でSuicaがほとんど役に立たないことだった。そこで毎日パンパンに膨らんだ財布を持つ習慣ができた。

次に美しい富士の景色を期待したが浜松からはほとんど見えないと知った。浜松は蚊がとて元気なので直ぐに虫よけグッズを買った。画材店がほぼないので紙が欲しい時は役所でチラシを大量に集めた。カーテン屋さんで布を買い、家具屋さんから木材を買った。いつも捨てる紙屑、プラスチック、包装紙、何でも取っておいて作品にした。川が驚くほどきれいで、手を洗いたい時は店より水路を探すほうが早いと思った。ご飯がとても美味しいのでコンビニで買うよりも自炊と食べ歩きが増えた。街のおすすめを丁寧に教えてくれる人が多く、誰かに話しかけてみるが増えた。またアートセンターで制作していると老若男女問わず話しかけられることが多かった。

これが私の浜松の日常であったが、地元に戻りこの話をするの大抵皆驚いていた。鴨江アートセンターというところは珍しい場所だと思う。ここは美術館でもギャラリーでも共同アトリエでもない。親子で遊びに来る人、楽器を練習しに来る人、お昼休憩に来る人、アートにあまり興味がなさそうな人もやって来る。そんな場所で4ヶ月過ごして展示をした。私は今までに、ここより気軽に日常的にアートが市民に開かれている施設を見たことがない。ここはお世辞にもアートが発展しているとは言えない浜松で、とても居心地の良い場であった。そして逆を言えば馴染みのない人にとって、ギャラリーや美術館という場所は非常に入りづらいということを改めて感じた。

公共的な発表の場では、作品の保護や安全性を第一にせざるを得ないことが多い中でこれから私自身が何を重視して作品づくりをしていくかと考える際に、一つの指針を提示されたような浜松滞在となった。

小林明日香

埼玉県を拠点として絵画作品制作。日々生活の中で見つけたものをモチーフとし、日記をつけるように制作している。そこには実際とは違う自分自身の感情や時間の経過によりぼやけて曖昧になった記憶が介入する。また日本画的な画材に多種多様な素材を組み合わせてドローイング、印刷を加え「現代日本画」とは何かと実験的な作品制作に取り組んでいる。



05

館長からのメッセージ

不易と流行

2022年、浜松市鴨江アートセンター（KAC）は開設10周年を迎えました。

KACは、アーティスト・イン・レジデンス(AIR)事業とアートワークショップ等の交流事業を主要軸としており、10年間で71組のアーティストが制作活動や成果発表を行い、770回以上のアートワークショップ等を開催しました。これらはウェブサイトアーカイブされていますが、多彩な活動の蓄積を通じて、KACは創造都市・浜松のアート拠点として全国的に注目される施設になったと思います。

アートセンターとは何かというのは普遍的な答えのない問いですが、KACスタッフは10年間この問いかけを自ら繰り返してきました。それは、答えを求めるのではなく、原点を忘れない姿勢の確認であると思います。アートというテーゼを立てるとき、様々な言葉が浮かびます。不易流行という言葉がありますが、これは松尾芭蕉が「おくのほそ道」を巡りながら俳諧の伝統(不易)と革新(流行)の融合を思考した理念と言われています。17文字の世界の中に、伝統を基としながら新しいものを織り込むという、究極のミニマリズムの世界を目指す思想だと思えます。

KACの存在意義を考えると、不易と流行の融合が重要ではないかと思えます。現代社会は、「変わらなければ生き残れない」、「唯一変わらない事は変わり続ける事だ」、「創造的破壊からイノベーションを起こせ」など、変わることを強要し過去を否定する、いわば狩猟民族的な強迫思想に溢れている気がします。しかし、伝統と革新が二項対立するような世界は、息が詰まる、生き難い環境ではないでしょうか。変わらぬ価値があるからこそ革新があり、変化の過程に本質が宿るという風に、もっと柔軟な思考が必要だと考えます。

KACは、ヒュッグ(hygge、デンマーク語で心地よい)な場づくりをテーマに活動を続けてきました。場の心地よさは人によって異なりますが、アートを通じて心が豊かになる空間の実現が理想です。1世紀近い時代を経た建造物の歴史に包まれて、「今ここで」創り出されるアートが、過去と現在が融合する非日常を感じる媒体となり、「生活に染み入るアート」が生まれる快適な空間が生まれると考えます。それは、美術館や限られた場所ではなく様々な環境に柔軟に存在するアート全てを意味する、いわばKACのビジョンを実現するドメイン(領域)だと考えます。

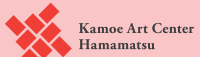
これからの10年もKACはアートセンターとは何かを自問し続けます。そして、その答えはこの場にヒュッグを感じてもらえるかにあると思えます。

2023年3月 浜松市鴨江アートセンター館長 村松厚



vol.8

浜松市鴨江アートセンター 広報紙
2023年3月31日発行



浜松市鴨江アートセンター

静岡県浜松市中区鴨江町1番地

TEL：053-458-5360

URL：https://kamoeartcenter.org/

開館時間：9:00～21:30

休館日：12月29日～1月3日/メンテナンス休館日あり

指定管理者：浜松創造都市協議会・東海ビル管理グループ

01 広がりつなげるZINE / ZING

02 GOKINJO MAP きっかけを与えてくれる場所

03 日々楽しむことを大切に / キボリノコンノ

04 2つの日常 / 小林明日香

05 不易と流行 / 館長 村松厚